

第70回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2021.6.25

『ルムジェブ注』

日本イーライリリー 落合 秀さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、内科職員さん、熊山ともみ、木村亜希子、鈴木里菜、上野香奈子、吉井智子、岩橋好美、隅山毬子、井上茉里、藏田桃子

ルムジェブは、ヒューマログにトレプロステチニルとクエン酸を加えることで、作用発現を早めた超速効型インスリン製剤である

【効能・効果】

インスリン療法が適応となる糖尿病

【用法・用量】

通常、成人では1回2～20単位を毎食事開始時に皮下注射するが、必要な場合は食事開始後の投与とすることもできる。ときに投与回数を増やしたり、持続型インスリン製剤と併用したりすることがある。投与量は、患者の症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量としては通常1日4～100単位である。

【禁忌】

- 1、低血糖症状を呈している患者
- 2、インスリンリスプロ又は本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【副作用】

- ・ 重大な副作用
低血糖、アナフィラキシーショック、血管神経性浮腫（いずれも頻度不明）
- ・ 0.1%～5%未満の副作用
注射部位反応（発疹、発赤、炎症）、リポジストロフィー

【特徴】

・ 既存の超速効型インスリンアナログ（ヒューマログ）に注射部位の局所血管を拡張させるトレプロステチニルと注射部位の局所血管透過性を亢進させるクエン酸を

加えることで、より速やかな血糖コントロールが期待される。

- ・ 食事開始 2 分前から食事開始後 20 分以内の投与が可能である。
- ・ 1 型及び 2 型糖尿病患者への食事開始時投与において、ルムジェブはヒューマログに比較して HbA1c のベースラインからの変化量では非劣性が、食事 1 時間及び 2 時間の血糖値上昇幅のコントロールでは優越性が検証された。

【考察】

- ・ ルムジェブは従来の超速効型インスリン製剤に比べてより速やかな血中濃度の立ち上がりと消失を示すため、低血糖症状の副作用が少なくより良質な血糖コントロールが可能だと考えられる。
- ・ 投与時間が食事開始 2 分前から開始後 20 分まで可能のため、患者さんにとってより使いやすく、コンプライアンスの上昇につながると考えられる。
- ・ 注射部位の疼痛の報告があるが注射後 4 時間で消失する事を患者さんへ指導することが必要だと考えられる。